

事業概要

応募No.	11		
事業主体	静岡県	実施都市名	静岡県富士宮市
応募者名	静岡県交通基盤部富士土木事務所		
ふりがな 事業名称	ふじのみやえきふきん みのぶせんてつどうこうかじぎょう 富士宮駅付近JR身延線鉄道高架事業		
事業概要 (400字以内)	<p>富士山のお膝元である富士宮市は、浅間神社の総本宮となる富士山本宮浅間大社の周辺に市街地が形成された観光都市である。</p> <p>(都)野中棒杭線は、多くの観光客で賑わう中心市街地を南北に走る路線であるが、JR身延線を渡る狭隘な踏切により、慢性的な交通渋滞が発生し、歩行者が危険に晒されている状況であった。このため、交通環境を改善するとともに、線路により分断された市街地を一体的に利用することを目指し、鉄道高架事業及び交差点改良事業を実施した。</p> <p>その結果、踏切の除却により渋滞が解消し、歩行空間が確保され、交通環境が改善した。早期事業効果を優先し、連続立体交差から限度額立体交差に事業手法を変更したことで、地権者はJR東海だけとなり、工事ヤードは電留線の跡地の中で完結することができた。</p> <p>事業完了後は、この跡地が浅間大社や世界遺産センターを訪れる観光客の駐車場や遊歩道として有効利用され、国内外の観光客で賑わっている。</p>		
事業規模	事業延長	250m(鉄道高架延長 739m)	
	幅員	18.0~19.0m	
	事業期間	平成19年度～平成30年度(鉄道高架切替:平成24年度)	
	事業費	33.7億円	

事業位置図

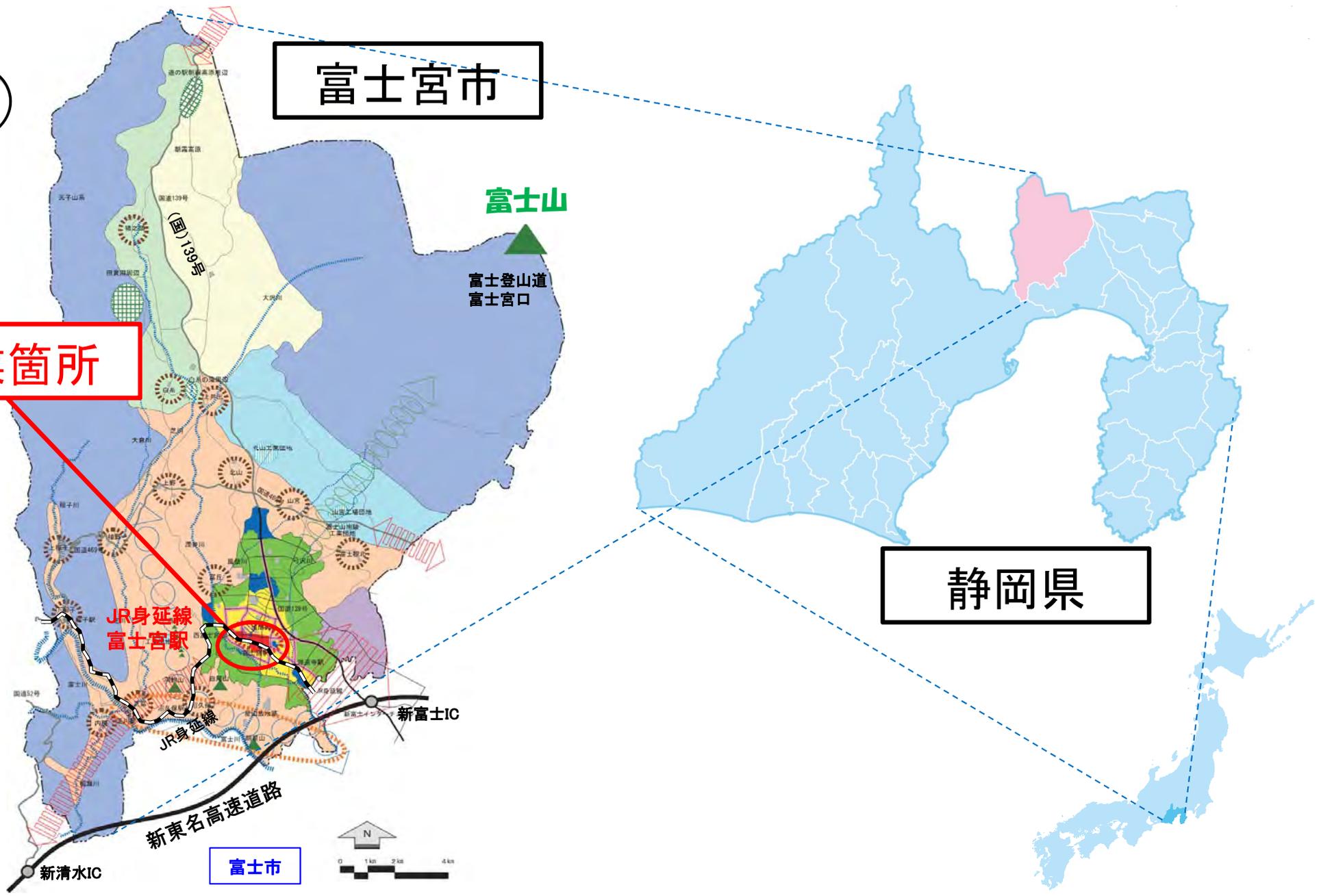
富士宮市

富士山

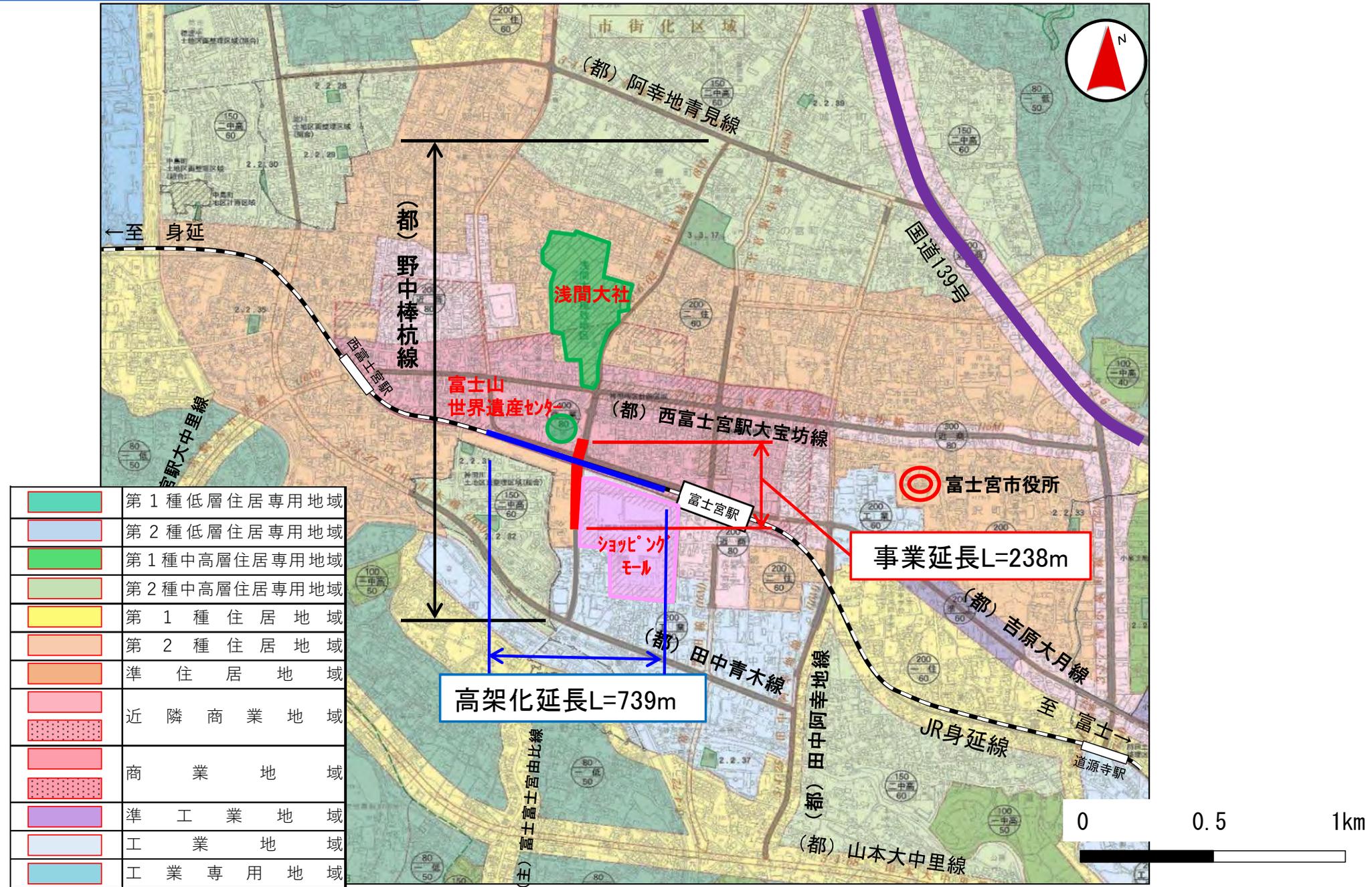
富士登山道
富士宮口

事業箇所

静岡県



都市計画図(用途地域図)



	第1種低層住居専用地域
	第2種低層住居専用地域
	第1種中高層住居専用地域
	第2種中高層住居専用地域
	第1種住居地域
	第2種住居地域
	準住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	準工業地域
	工業地域
	工業専用地域

平面図

鉄道高架区間 L=739m



高架側道

野中踏切
(高架後撤去)

歩行者道路
(市道大宮町23号線)

交差道路①
(市道大宮町21号線)

交差道路②
(市道宮町10号線)

(都)野中棒杭線
拡幅改良区間
L=238m
W=18~19m

都市公園
浅間町フレンドパーク

ショッピングモール

凡例

事業主体:静岡県

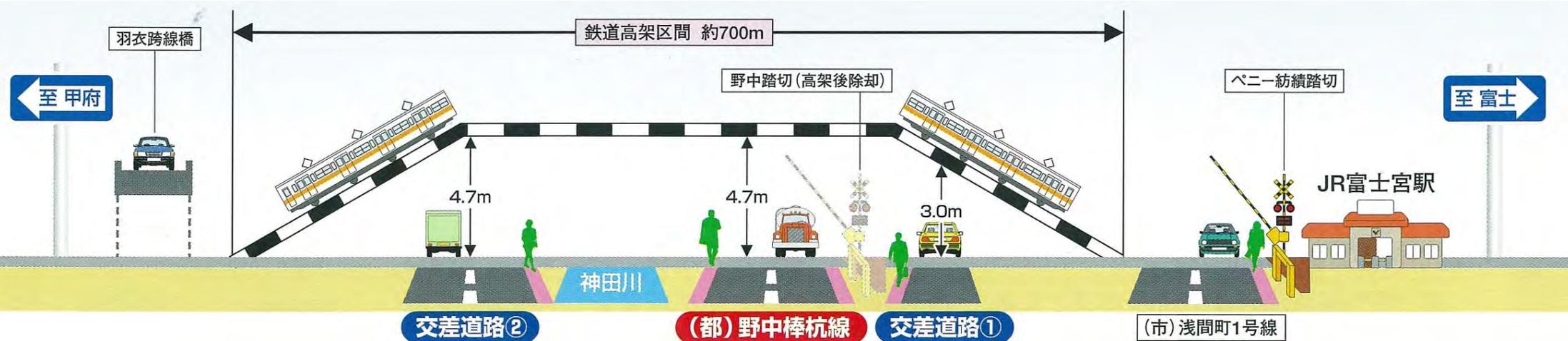
■ (都)野中棒杭線 拡幅改良区間

▨ 鉄道高架区間

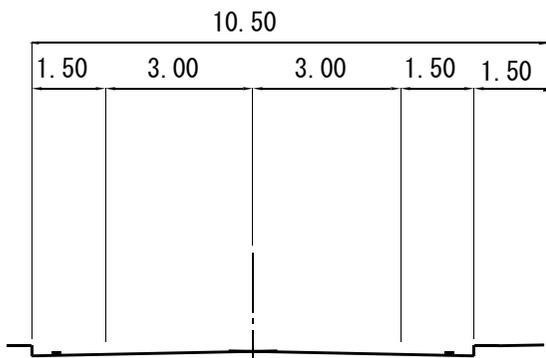
事業主体:富士宮市

■ 市道の新設(車道・歩道・緑道等)

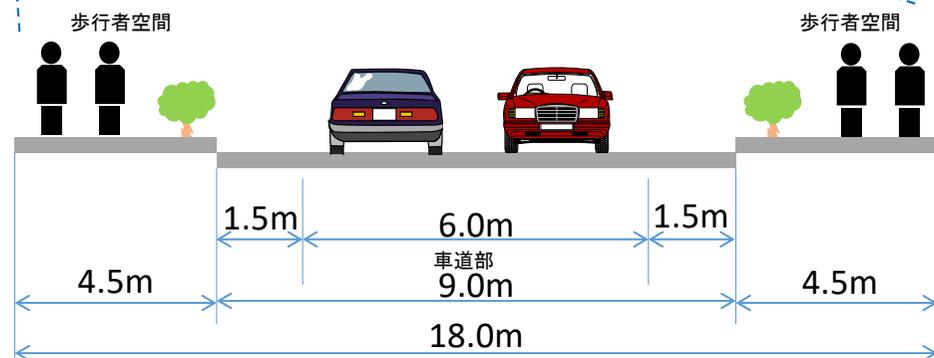
横断図



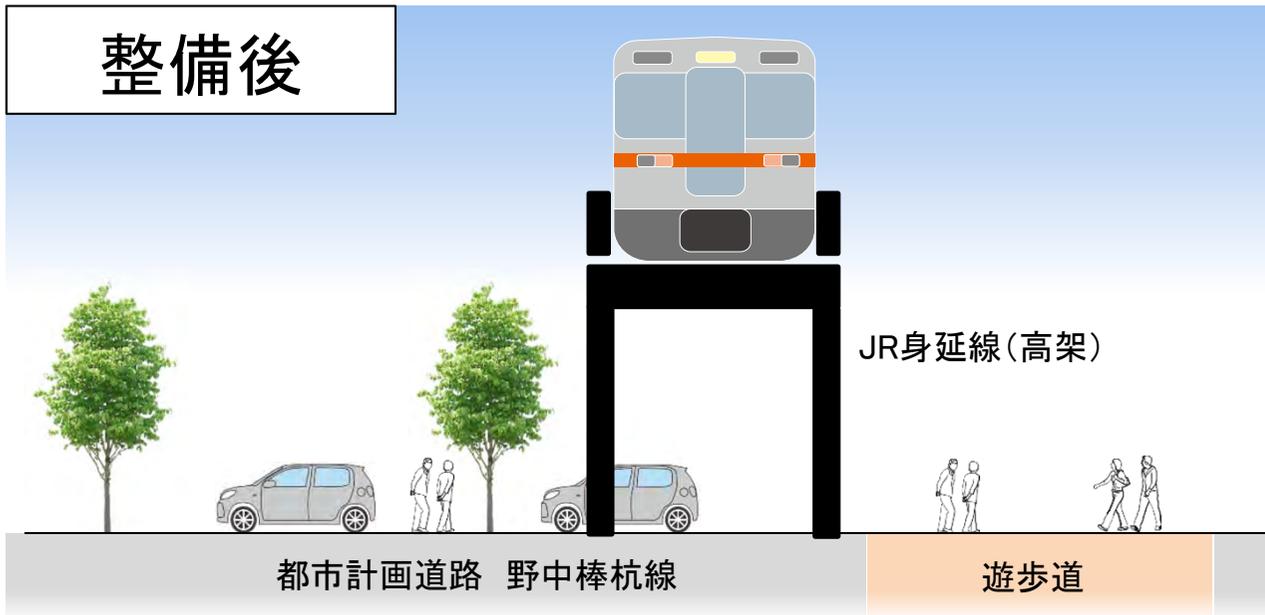
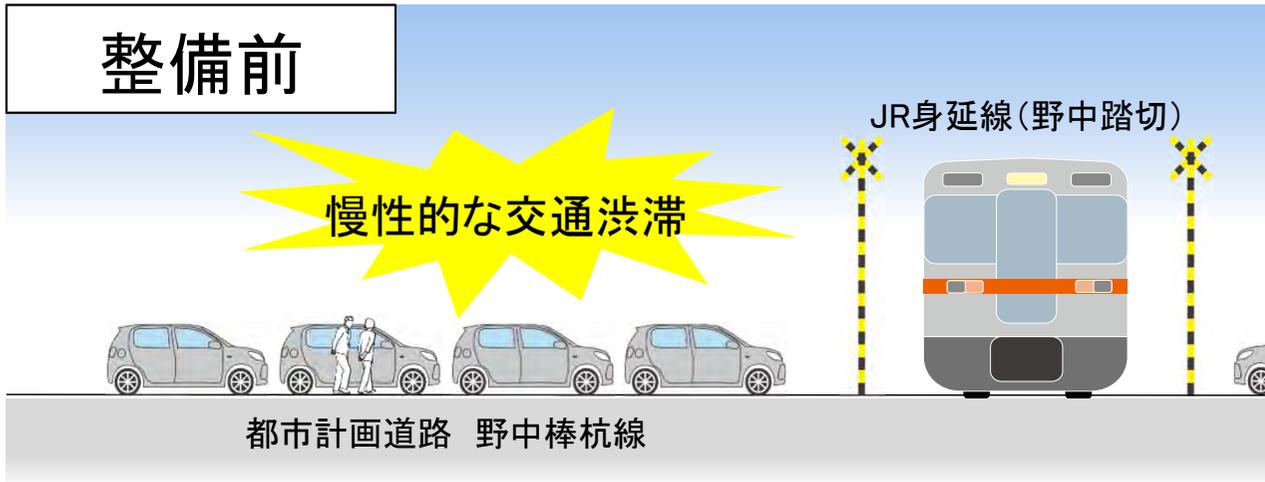
整備前



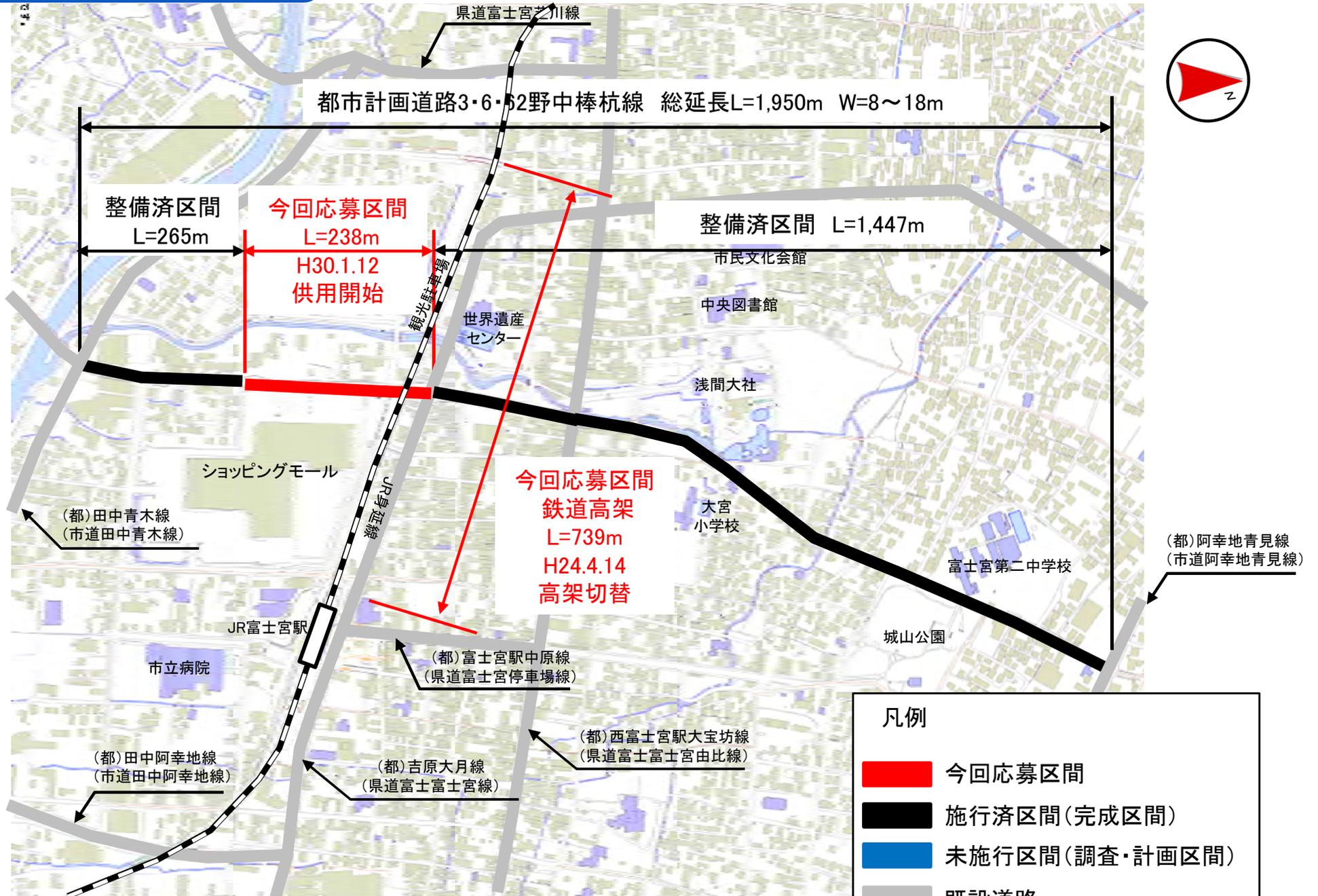
整備後



横断図



路線全体の進捗状況



事業前写真



平成17年7月撮影



平成4年3月撮影



平成4年3月撮影

事業後写真

(富士宮駅付近JR身延線鉄道高架化事業)



令和元年10月撮影



令和元年10月撮影



令和元年10月撮影

効果その1

交通の円滑化により、南北市街地の交流促進に寄与

交通量

55%増



走行速度

37%増



富士宮秋祭り

効果その2

ゆとりある歩道により安全・安心な歩行空間を確保



整備前



整備後

事業効果アピール資料

効果その3

- ・鉄道高架化工事完了後、電留線跡地を活用し、富士宮市が観光駐車場を整備
- ・富士山本宮浅間大社や平成29年にオープンした富士山世界遺産センター最寄りの市営駐車場として、年間約6万台が利用し、観光交流人口の拡大に大きく寄与

整備前



※電留線跡地
(一時的に車両を
停めておくための線路)

工事中の施工ヤード
としても活用

整備後



富士山世界遺産センター
(H29.4オープン)



出典：富士宮市

富士山本宮浅間大社(世界文化遺産)



事業効果アピール資料

効果その4

- ・富士宮市と連携し、鉄道高架と交差する市道2路線、遊歩道、公園を整備し、旧鉄道敷を有効活用
- ・鉄道により分断されていた南北地域コミュニティの再生、回遊性のある歩行者空間と憩いの場を創出

交差道路①
市道大宮町21号線



遊歩道
市道大宮町23号線



交差道路②
市道宮町10号線



都市公園
浅間町フレンドパーク



苦労や工夫等アピール資料

鉄道高架工事の広報活動について

(富士宮駅付近JR身延線鉄道高架化事業)

現地は転石が混入した軟弱地盤であり、施工時の騒音・振動により、度重なる地元対応が必要



- ・工事の進捗状況や今後の工事予定を周知するため、約4年半の工事期間において、**毎月1回、計55回の広報誌を発行。**
- ・度重なる騒音・振動への苦情に対し、地元の理解を得るため、県とJR東海が協力し、**現場説明会を開催、その後は約100件の近隣住民へ職員が個別訪問・説明を実施。**

工事状況



在来線が運航していない夜間に工事を実施



現場は家屋やホテルに近接しての工事

周辺家屋への工事影響



近隣家屋に
ひび割れが発生

電波障害が発生



広報誌の回覧・配布

回覧



- ・第一旭田川の付替え工事を行います。(一部夜間工事)
- ・道路を跨ぐ、鉄道橋を架けます。(夜間工事/県道通行止)

●1月から2月上旬の工事予定

⑥【一部夜間工事】第一旭田川の付替え工事を行います。

②⑥ 橋梁部では引き継ぎ鉄筋を組立ったり、コンクリートを打設します。

●施工位置図

⑤【夜間工事】鉄道橋を防護するために「けた」を架けます。

④【夜間工事】道路を跨ぐ、鉄道橋を架けます。

③【夜間工事】踏切警報機を移設します。

①⑦のコンクリートの壁を作り、その中を盛土します。

- ※ 夜間工事協力のお願い
列車を安全に運行させるために、線路にとても近い場所で騒音と振動を伴う次の作業を夜間に実施します。大変ご迷惑をお掛けしますが、ご理解いただけるようお願いします。
- ・第一旭田川の水路付替え工事 1/6、1/7、1/25、2/7 (予備日1/28)
 - ・野中踏切東側の踏切警報機の移設 1/9
 - ・野中踏切付近の防護けたの架設 1/24 (予備日1/25)
 - ・野中踏切付近の鉄道橋の架設 2/2~2/4、2/7、2/8
- ※この工事工程は作業の進捗により前後します。

※「富士宮鉄道高架かわらばん」は、西公民館、中央公民館、南公民館、富士宮市役所都市整備課(5階)に備えてあります。手持ちが必要な場合は、お手数ですが、そちらへお越しください。

- ・広報誌の発行回数は55回
- ・周辺の6自治会に約160部
- ・近隣住民95戸には職員が訪問し配布
- ・市内の2中学校、2小学校、3幼稚園に配布
- ・市役所、公民館、警察署に配架

苦労や工夫等アピール資料

地域住民を対象とした工事現場説明会の開催



騒音・振動の原因となっ
ている石を見てもらった



橋の構造を
わかりやすく説明



重機を動かし、騒音と振動
を体感してもらった



JRの工事担当者も
丁寧な説明を住民に行った

<現場説明会の効果>

1 当日の効果

- ・地域の方々が心に秘めていた不満や不安を、冗談交じりで聞くことができた
- ・罵声を浴びることもなく、引き続き行う騒音、振動の激しい工事や、夜間工事のお願いを伝えることができた

2 説明会後の効果

- ・苦情が大幅に減少
- ・声の大きな方々の物腰がやわらかに
- ・もともと不満のない方々が、広報マンになってくれた

3 想定外の効果

- ・JRの工事担当者との関係が、より良好になった
- ・JR管理課との難しい協議にも、工事担当からフォローが入るようになった

新工法(すいすいSWAN工法)の採用

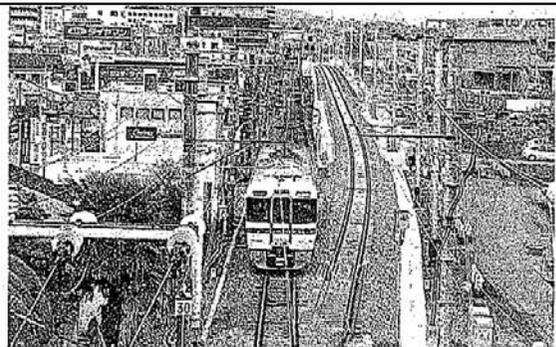
鉄道の沿道に人家が密集していることから、騒音・振動、ダンプ等の搬入による渋滞発生など地域住民に多くの負担がかかるため、プレキャストの部材を組み立てて行く、プレキャストアーチ式構造ラーメン高架橋(すいすいSWAN工法)を採用。

すいすいSWAN(Segment Wings for an Arched New-bridge)工法を用いることにより、足場、支保工、型枠、コンクリート打設の現場作業が省略され、施工性や安全性が高まり、工期の短縮につながった(ビームスラブ式ラーメン高架橋に比べ約100日間の工期短縮)。



受賞歴・報道資料

平成24年3月27日 静岡新聞



高架化するのはJR富士宮西富士宮間、R身延線が交差する野間約740m。県道中踏切付近の渋滞解消一却する。



列車の通行線路が4月14日から、高架区間(右)に切り替わる。

県が事業主体となり、富士宮市内で推進するJR身延線の鉄道高架化事業で、列車の通行線路が4月14日から高架区間に切り替わる。不要になる現行の線路を撤去した後、県道と市道の整備を進め、南北交通の円滑化を図る。

JR身延線

来月14日高架切り替え

南北交通の円滑化図る

歩行者や自転車も安心して通行できるよう、県は2012年度、県道富士宮西富士宮間、県道富士宮西富士宮間の拡幅工事を行う予定。市も13年度から15年度にかけて、周辺の市道で高架橋の下を通る2本の交差道路を新設し、側道と公園の整備を進める計画だ。

場に入出入りする大型車両などで同踏切は渋滞が慢性化していた。鉄道高架化事業は南北交通の円滑化とともに、中心市街地の活性化につながることを期待されている。

平成24年4月15日 静岡新聞

JR身延線 高架化完成

富士宮一西富士宮駅間

周辺交通網整備進む



テープカットしてJR身延線の鉄道高架化完成を祝う関係者。富士宮市の西富士宮駅。

県が事業主体となり、富士宮市内で推進するJR身延線の鉄道高架化完成式が14日、同市の西富士宮駅で行われた。同市と周辺地域では鉄道高架化に加え、新東名高速道路の開通や国道469号の延伸、西富士宮道路の無料化など交通網整備が相次ぐ。利便性向上とともに、富士山の世界文化遺産登録を見据えた地域活性化への期待が高まっている。



鉄道高架化は身延線と県道富士宮西富士宮間が交差する野中踏切付近の渋滞解消や、踏切事故の撲滅などが目的。対象は同市の中心市街地に位置する富士宮駅と西富士宮駅間の約740mで、両駅は含まれない。同日の始発から列車の通行線路、企業誘致や観光誘客など、東海道沿線に位置しない同市はこれまで、西富士宮道路(平日無料化)の円滑化を図る。

が高架区間に切り替わった。完成式には市や県、富士宮商工会議所などの関係者が出席し、テープカットの後、一番列車に乗りした。高架区間を通行した。県は19日から野中踏切の撤去作業を行い、同県道の拡幅工事にも着手する。市も2013年度から15年度にかけて、高架下で市道交差道路の新設や側道の整備などを進める計画で、市街地の南北交通の円滑化を図る。